

広報させば 情報カレンダー 04. 3月



日	月	火	水	木	金	土
	1 出前保育「みんなよっといでー!」	2 新入学児童の交通安全教室 ~4月7日	3 中小企業金融公庫出張相談	4	5	6
7 ウサギの飼い方教室 ひな祭りクルーズ	8	9	10	11 親と子のエンパワメント・ワークショップ	12 発明相談 体育文化館で親子のつと	13 自然観察会 動物舎探検隊
14 スピカ・カレッジ させばっ子環境サミット	15	16	17 市立中学校で卒業式 市立総合病院の健康教室	18 市立小学校で卒業式	19	20 春分の日 春の花まつり~28日 かえる展~5月30日
21	22	23	24	25 春休み「おりがみ教室」 教育を考える講演会	26	27 西海橋・桜まつり~4月11日
28 国民健康保険の日曜相談 100年の森を創ろう植樹祭	29 動植物画スケッチ大会~4月7日 市民協働を考える講演会	30	31 豪華客船「につぼん丸」入港	4月の主な行事予定 4/1 不動産鑑定士による無料相談会 4/6 西海橋・観潮会ウイーク~11日 4/7 市立中学校で入学式 4/8 市立小学校で入学式		
こども予防接種週間 3月1日~7日 毎月第1水曜 中小企業金融公庫出張相談 (13~15時、佐世保商工会議所) 毎月第2金曜 発明相談 (10時~15時30分、市役所10階)						

テレホンガイド

救急・火災

医療機関案内 ☎23-8199
火災情報 ☎0180-999-999

エイズ相談・性感染症相談

専用相談電話 ☎0120-104-783
Eメールアドレス
shc783@city.sasebo.nagasaki.jp

教育相談

青少年教育センター ☎22-0077
(毎月第2、4木曜の17時30分~20時30分には、夜間相談も受け付けます)

女性相談

スピカ ☎24-6180
(水曜と祝日を除く毎日、9時~16時)

3月の健康テレホン

県保険医協会 ☎23-4300
3分間のテープで、祝日は前日の内容が流れます

月 胃、十二指腸潰瘍の治療
火 手指の変形 水 母乳と薬剤
木 ドライアイ 金 電動歯ブラシ
土、日 早発閉経

人のうごき (2月1日現在)

総人口 239,821人 (+185)
男 112,847人 (+145)
女 126,974人 (+40)
世帯数 93,367世帯 (+56)

1月中のうごき

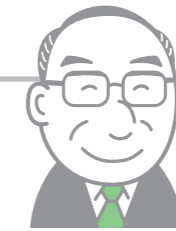
転入 694 転出 488
出生 210 死亡 231

見て、聞くさせば市政だより

テレビ 毎週土曜日放送(約5分間)
NBC (9時25分) NIB (11時25分)
NCC (11時40分) KTN (17時25分)

ラジオ
NBC 毎週日曜日 9時10分
FM長崎 毎週火曜日 9時05分
FM長崎マイシティマイタウン 毎週土曜日 8時55分

長崎新聞 毎月第2、4水曜日広告欄



こんにちは市長です。

名物料理を育てる

歴史の古い町には、たいがい名物料理があります。チャンポン、カステラと言えば、その頭に「長崎」と冠が付き、その地名と一体になっています。

本市には、そういった類のブランド物が少なく、そのことは観光立市を掲げる佐世保にとって悩みの一つでもありました。

そのような中で、最近、九十九島カキが急速に知名度を高めてきました。先月、西海パールリゾートで開催された「九十九島かき食うカキ祭り」はこととして3年目となりますが、2月1日の初日には約7,500人の来場者を呼び込み、大変なにぎわいをみせました。

市制百周年を記念して海上自衛隊から提供された「海軍さんのビーフシチュー」「入港ぜんざい」などをメニューに加えるレストランや、そのレシピ(調理方法)を活用したレトルト商品も出ました。

景観や歴史、音楽と並んで名物料理は観光地を魅力的にする大きな要素です。手作りハンバーガーなども加え、市民挙げて名物料理を育てていきたいものです。

佐世保市長 光武 顕

歴史散歩 464

佐世保浦と富田家 (長尾町)

佐世保川河口の佐世保浦(元町一帯)で、約250年前の宝暦年間から酒造業を営んでいた富田家の第16代当主・富田宏さん(73歳)宅が長尾町にあります。昭和7年、宏さんの祖父等平氏が別荘として建てた家で、信心深かった祖母トシさんの希望で置かれたと思われる石のお地蔵さんなど、珍しい石造物十数個のある庭が興味を引きまます。行幸橋のたもと、NHK佐世保支局が入居しているビルが富田酒造場跡。昭和20年6月の米軍B29爆撃機の空襲で焼失するまで、4階建て分もある吹き抜けの醸造所や蔵などが立ち並んでいました。空襲の日、出荷を待つ特級酒「烏帽子正宗」など20石(約3,600リットル)入りの大樽150本、3,000石があり、佐



世保川を炎を上げながら流れたそうです。別荘を建てた等平氏は明治4(1871)年生まれ。慶応大学を出て佐世保に帰り、初代親和銀行頭取、市議会議長、衆議院議員、商工会議所会頭など政財界で活躍されました。富田家は早岐地頭の岡一族で、

天正14(1586)年、三川内の井手平城で討ち死にした岡甚右衛門の三男が武門を嫌って早岐で商家を興し、その後、寛文年間(1661~73)、忠豊の代に佐世保浦に出、その子忠富が酒屋株を求めて酒造業を始めたのです。

つまり、江戸時代中期の佐世保浦は、酒造業が成り立つほどの「都市化」をしていて、末期にはさらに2業者が加わっていたのです。「寒村」

だったとよく言われていますが、早岐浦と共に廻船など海運の拠点だったのでしょう。(筒井隆義)



お詫びと訂正 2月号の「歴史散歩」で「緑泥片岩の大水輪」の場所が「早岐3丁目」とあったのは、「早岐2丁目」の誤りでした。広報係からお詫びして訂正します。